

こんなところに 市民憲章

1. 富士山のようにたくましく
働くよろこびをもち
健康な家庭をつくります

中体連の市長杯を授与

野外活動やスポーツは丈夫な体をつくり、健康をはぐくみます。

中学生のスポーツ大会といえば中体連。ことしも各中学校の名誉をかけて熱戦が繰り広げられました。そして、種目ごとの成績に優勝5点、2位3点、3位1点と点数をつけ、総合得点も競われています。市長杯は、総合得点の優勝チームに贈られるもので、ことしは、男子が柔道・サッカーなど4種目で優勝した田子浦中、女子がバスケット・駅伝など3種目で優勝した吉原北中に授与されました。



△十一月二十日の授与式

初めまして!! 市民一年生です!! カキのおいしい広島、 生ジラスに挑戦してみたい。

今回は、富士見台四の西川俊雄さんのお宅。四月に広島市から転勤でみえました。「本当にウチじやなきやダメ?」と謙虚な西川さんに、ずうずうしくもおじゃましました。

西川さんちは、ジャトコにお勤めの俊雄さん(四十二歳)と奥さんの順子さん(三十八歳)、長男貴俊君(五歳)、長女美貴ちゃん(四歳)、次男裕俊君(二歳)の五人家族です。

広島市はどんな街

俊雄さん「人口が百万人を超え、政令指定都市です。私たちは安芸区というところに住んでいました。気候は富士市よりちょっと寒いような気がします」

富士市の印象は

順子さん「なんととっても富士

山、部屋から寝ていても見えるなんて……。何年後かは広島へ帰るので、子供のよい思い出になると思います」

住み心地はいかがですか

俊雄さん「住みよいところですが、においは時々気になりますね」
順子さん「物価が少し高くありませんか。また、広島ではごみの出し方について、チェックが厳しく、収集の人が中身まで調べます。可燃物の日に不燃物が入っていると持っていつてもらえませんでした。富士市は、ビニールなども可燃物

広島といえればカキですが……

順子さん「酢ガキやカキフライ、なべものなどおいしいですよ。こちらでは生ジラスが有名ですが、まだ食べたことがありません。ゆで落花生は抵抗がありました」
俊雄さん「富士の方言「ら」は広島の「じゃけん」よりやわらかく聞こえるとか。「そうずらか」



△左から美貴ちゃん、順子さん、貴俊君、俊雄さん、裕俊君

「随筆の部」で、市民文芸賞を
2年連続受賞

小池ヒロ子さん

(柚木)



市 市民文芸賞を連続受賞。

「六十歳くらいの男性を想像するみたいですよ。私の文章って」。

話しながら、とてもおもしろそうに笑う小池ヒロ子さん。昨年に引き続きいて、ことしも随筆の部で市民文芸賞を受賞しました。

昨年の作品は、晩秋の実相寺境内とその裏の岩本山に登り、自然と一体化できた喜びを描いた「この身に秋を」。ことしは、末期がん患者たちが短冊に託す「生」への血を吐くような叫びを描いた、「七夕」。

「連続受賞は、ラッキーだったと思います。審査員の先生と、波長が合ったということでしょうか。」



自分の書いたものがどこまで通用するのか、これからが怖い」

完

随筆は、原稿用紙で七枚が基準。小池さんは締め切り間際に胸の内にあふれ出すものを一気に書き上げます。書かれたものは、むだな飾りを省いた、書かずにはいられなかった事だけ。

また、人となりがそのまま表れるのも随筆。小池さんの作品の中には、いろいろなものが同居しています。スケールの大きい男性的な面やきちようめんさや温かさや……。

「本当は、好奇心の塊だし、そそっかしくて忘れんぼうなんです。だから、ゆっくりと物事を見るようにしています。ゆっくり考える。ゆっくり歩く。それだけで、新しい発見ができます」。

今、小池さんの心の中に住みついた「新しい発見者たち」が、ふつふつと完熟し、次の出番を待っています。